



一関市大東町のボラン
ティア団体ホッパの会
(勝部昌平会長) が主催
するたたら製鉄体験は4
日、同町大原内野地区の
砂鉄川たたら製鉄学習館
で行われた。児童の製鉄
体験は旧内野小学校から
大原小に受け継がれ、今
回で20回目。同小の6年
生児童は川から採取した
砂鉄を高温の炉にくべ、
地元の製鉄の歴史に思い
をはせていた。



昔ながらのたたら製鉄を体験する大原小の6年生

児童とホッパの会
員、一般の協力者ら約80
人が参加。会員が早朝か
ら2基のたたら炉を用意
し、1300℃~1400
度に加熱。児童が手作業
で細かく砕いた木炭と砂

たたら製鉄炎熱に汗 大原小児童が体験

ホッパの会では、活動
20年を祝して記念誌の発
刊を予定。勝部会長は
「この活動が、さらに10
年20年と続く
仕組みをつく
っていきたく
い」と意欲を
見せていた。

電子新聞に
動画アップ

鉄を交互に投入し、製鉄
作業に取り組んだ。
高温となった炉からは
大きく炎が上がるため、
児童は防護ヘルメットと
軍手で肌を守りながら作
業。菅原斗夢君は「炉
に砂鉄を入れるのはとて
も熱い。たたら製鉄は大
変な作業だと実感した」
と語っていた。
完成した鉄は、児童の
卒業制作に利用される。
昨年度から卒業記念品の
制作に携わっている及源
铸造(奥州市)の及川久
仁子代表取締役社長は
「ただ記念品を作るとい
うだけではなく、たたら
製鉄という文化にも関わ
れることなので、今年度
も協力したい」と話して
いた。